

三原市公共施設類型別実施計画（案）
【市民文化系施設（生涯学習施設）編】

1 施設配置



No.	施設名
1	中央公民館
2	本郷生涯学習センター
3	地域学習センター（さざなみ学校）
4	サギ・セミナー・センター

2 施設データ（平成 31 年度の実績を記載し、収入・支出は臨時的なものを含む。経過年数は令和 2 年時点）

施設名	地域	建築年 (年)	経過 年数 (年)	延床 面積 (㎡)	運営	収入 (千円)	支出 (千円)	収支 (千円)	利用者数 (人)	利用者 当収支 (円/人)
中央公民館	三原	1982	38	3,323	直営	3,399	28,389	△24,990	106,491	△235
本郷生涯学習センター	本郷	2004	16	4,968	直営	4,039	39,679	△35,640	78,694	△453
地域学習センター（さぎなみ学校）	三原	1982	38	1,333	直営	116	4,023	△3,907	19,707	△198
サギ・セミナー・センター	三原	1985	35	1,735	直営	455	10,487	△10,032	2,925	△3,430

3 現状・課題

(1) 中央公民館

- ・住民の教養の向上，健康の増進及び情操の純化を図り，生活文化の振興及び社会福祉の増進に寄与することを目的として設置している。
- ・施設は，円一町二丁目に立地し，昭和 57 年建築で新耐震基準に対応しており建築後 38 年が経過している。
- ・旧三原地域の生涯学習施設をとりまとめる拠点としての役割を担っており，大講堂，中講堂，研修室 2 室，講座室 3 室，資料室，調理室，美術・工芸室，幼児室等の貸室がある。
- ・生活文化の振興及び社会福祉の増進拠点として，集会や発表の場として，また貸館も行っている。
- ・利用者は，旧三原中心地域の住民であり，貸室の数と種類が多く，また JR 三原駅から徒歩圏内であり，歴史民俗資料館，武道館など公共施設と隣接し，周辺には複数の大型商業施設が立ち並ぶ市域の中心的位置に立地しており条件が良い施設となっている。
- ・敷地内駐車場は 34 台分しかなく，開館時間中は常時満車の状態である。
- ・貸室の利用率は 1 階大講堂 84%，2 階中講堂 54%，3 階美術工芸室 53%，1 階研修室 2 室は 53%，57%，2 階講座室 3 室及び資料室は 47%から 50%，3 階調理・染色室は 49%の利用状況である。

(2) 本郷生涯学習センター（学習棟）

- ・住民の教養の向上，健康の増進及び情操の純化を図り，生活文化の振興及び社会福祉の増進に寄与することを目的として設置している。
- ・施設は，本郷南六丁目に立地し，平成 16 年度建築で新耐震基準により整備され建築後 16 年が経過している。
- ・本郷地域の生涯学習拠点施設としての役割を担っており，学習棟に研修室 7 室，情報学習室，調理室，工芸室等の貸室と図書館があり，複合施設の別棟にホールがある。
- ・生活文化の振興及び社会福祉の増進拠点として，集会や発表の場として，また貸館も行っている。

- ・利用者は、市内からが多く、貸室数や駐車スペースの確保、本郷駅から徒歩圏内に立地しており条件が良い施設となっている。
- ・学習棟 1 階の研修室 2 室は 27%，29%，情報学習室，調理室ともに 30%，工芸室は 35% の利用状況，学習棟 2 階の研修室 3，4 は 27%，22%，ギャラリーを改装して令和元年 10 月供用開始した研修室 5，6，7 は 11%，11%，5%，ミーティングルーム 26%，和室 14%，多目的ホール 41% の利用状況である。

(3) 地域学習センター（さざなみ学校）

- ・住民の教養の向上，健康の増進及び情操の純化を図り，生活文化の振興及び社会福祉の増進並びに生涯学習の推進に寄与することを目的として設置している。
- ・施設は，幸崎久和喜に立地し，昭和 57 年建築で新耐震基準に対応しており建築後 38 年が経過。平成 16 年 5 月に旧久和喜小学校を活用して開設，運営している。
- ・学習棟 1 階に和室 2 室，2 階に講座室 3 室及び自然体験教室，3 階に図書室，手芸室，調理室，工芸室，音楽室の貸室がある。なお，3 階建てだがエレベーターは有していない。また別棟の体育館及び屋外にグラウンドがある。
- ・学習棟の主な利用は，主催講座 2 講座と登録団体 7 団体とであり，和室及び講座室の平日利用が多い状況である。利用者は幸崎久和喜地域を始め旧三原地域から来館している。
- ・体育館の主な利用は登録団体 16 団体であり，幸崎久和喜地域住民の団体が 4 団体，幸崎能地地域住民の団体が 5 団体と多い状況である。学習内容は，バスケットボールやビーチボールバレーなど体育館での実施に限定されるものが多い。
- ・グラウンドの主な利用は登録団体 5 団体であり，久和喜町内会，幸崎久和喜及び須波地域のグラウンドゴルフ各 1 団体，旧三原地域のソフトボール 2 団体となっている。
- ・学習棟の貸室年間利用率は 1% から 6% の利用状況である。
- ・体育館の年間利用率は 48% であり，夜間の利用が多い。
- ・グラウンドの年間利用率は 27% であり，午前中の利用が多い。
- ・国道 185 号線に面して立地しており，駐車場も広く広域から車での来館が可能な利便性の高い施設である。
- ・周辺に公共施設は無く，多機能の貸室がある学習棟，体育館，グラウンドを有し，多様化する市民の生涯学習への要望に応えることが可能な施設である。
- ・体育館及びグラウンドは利用率が高く，周辺に類似施設が少ないため利用の増加も見込める。

(4) サギ・セミナー・センター

- ・青少年の健全な育成を図るため設置している。
- ・施設は，鷲浦町に立地し，昭和 60 年建築で新耐震基準に対応しており建築後 35 年が経過。平成 26 年 3 月に三菱重工労働組合三原支部から施設の寄附を受けて取得し，青少年の団体宿泊研修施設である青年の家として平成 26 年 8 月から運営している。
- ・研修室，会議室 2 室，大広間，宿泊室（洋室，和室）等の貸室，食堂や浴場がある。宿泊室ごとにトイレ・風呂の設備はなく，3 階建てだがエレベーターは有していない。
- ・利用は，学校の長期休業中や土・日曜日の利用が多い状況である。
- ・地域性から，地域振興や観光を目的とした利用も受け入れている。
- ・利用者は，青少年教育団体等が 3 割，地域振興や観光などその他が 7 割となっている。

- ・使用料収入は少なく，施設から生じる収入のみでの運営は困難な状況である。
- ・青少年教育施設としての活用は低価格のメリットはあるが事業経費に見合っておらず，少子化や余暇活動の多様化の影響もあり本来目的の利用の増加は見込みにくい。
- ・平成31年度事業レビューでは，「青少年教育施設としての役割は終えたのではないか。今後は観光や地域活性化としての活用を考える時期にきているのではないか。」との評価であった。

4 実施方針

(1) 中央公民館

- ・利用圏域については市域施設とし，生涯学習拠点として位置づける。長寿命化計画を作成し，維持管理に必要な設備投資とともに，生涯学習の場所と機会を提供する。

(2) 本郷生涯学習センター（学習棟）

- ・利用圏域については市域施設とし，生涯学習拠点として位置づける。長寿命化計画を作成し，維持管理に必要な設備投資とともに，生涯学習の場所と機会を提供する。

(3) 地域学習センター（さざなみ学校）

- ・当面の間，生涯学習施設として運営を継続する。今後は利用状況や，地域住民の意見をふまえ，施設のあり方を検討する。

(4) サギ・セミナー・センター

- ・当面の間，青少年団体宿泊研修施設として運営を継続する。今後は，観光や地域振興に重点を置く施設として全庁的な検討を行う。

5 個別施設の方向性

施設	方向性		説明
	機能	建物	
中央公民館	継続	継続	生涯学習の場所と機会を提供する拠点施設として，機能・建物を継続する。
本郷生涯学習センター （学習棟）	継続	継続	生涯学習の場所と機会を提供する拠点施設として，機能・建物を継続する。
地域学習センター （さざなみ学校）	当面 継続	当面 継続	当面は機能・建物を継続し，利用実績，地域性等を考慮しつつ，施設のあり方を検討する。
サギ・セミナー・センター	当面 継続	継続	当面は機能・建物を継続し，利用実績，地域性等を考慮しつつ，用途変更を検討する。

6 年次計画

施設名	R2	R3	R4	R5	R6
中央公民館	継続				
本郷生涯学習センター	継続				
地域学習センター（さざなみ学校）	当面継続（施設が担う役割や位置づけを整理し見直しを行う）				
サギ・セミナー・センター	当面継続（施設が担う役割や位置づけを整理し見直しを行う）				